

森と共に生きるまち宍粟の

みどりじまん新聞



Vol. 12

令和5年5月号



バックナンバーは
こちら

木育 過去ニュース

2019年11月
森林大学校と連携
みどりじまん新聞発行開始



森林大学校 国内研修について

研究者 黒田 侑希

森林大学校では2年生の授業計画の中に本来海外研修があるのですが、新型コロナウイルスの影響で実施できず、国内研修に切り替わっています。今回は、私たちが令和4年6月13日から17日の5日間で訪れた兵庫県と岡山県の林業に関する取組について紹介します。

1日目 岡山県真庭市

真庭市は、市全体で林業に力を入れており、CLT【写真1】の製造工場や木質バイオマス発電所などの施設があります。

はじめに、真庭市勝山にある木材市場を見学しました。市場には県内外から多くの製材所が木材の買い付けに来られることで、場内には原木の山が所狭しと置かれ、原木を運ぶ機

CLT（直交集成板）とは？



複数の板を貼り合わせて集成板をつくる際に、木の繊維の方向を互い違いになるように貼り合わせることで強度を上げる技術

【写真1】CLT

木の繊維の方向を互い違いになるように貼り合わせることで強度を上げる技術

械があちらこちらで動いていました【写真2】。

また、すぐ隣にある真庭

森林組合では、CLTが使われた建物を見学しました。建物には、木が持つ断熱効果等を測定する機械が設置され、快適さを数値化し、

今後の木材利用に役立てる仕組みになっています。

組合の方によると、以前使用していたコンクリート製の事務所と比べて、現在の建物の方が快適さを感じられるそうです。

その後、CLTを製造している銘建工業株式会社

社の工場も見学しました。工場では、大きな断面のCLT製造が可能で、その最大サイズは長さ12

m、幅3m、厚さ30cmにもなります。

続いて、バイオマス発電に使用する原料の集積基地では、木材を細かく砕いてつくるチップ【写

真3】の原料となる未利用材や端材の集積状況とチップを製造・出荷する際の注意点を教えていただきました。バイオマ

ス発電所では、チップを事業者等



【写真2】木材市場
(勝山木材共販所)



【写真3】
木材チップ

から買い取る際に、水分量によって価格に差が出るそう
で、水分量が少ないほど
燃焼しやすいため、高額と
なります。実際にボイラーで
チップが燃焼する様子も見
学しましたが、小窓越しでも
熱気を感じるほど熱く、最大
で一般家庭2万2千世帯の
電力に相当する1万kwを作
ることができるそうです。

2・3日目 岡山県新見市

次に訪れた新見市では、最

初に森林林業技術支援セン

ターに伺い、林業の低コス

ト化に向けた取組や森林管

理技術について学びました。

低コスト化に向けた取組

では、コンテナ苗など木の成

長を早める工夫についてお話

を伺いました。コンテナ苗

は、土の入った根鉢付きの苗

木で、根だけの苗木と比べて

水持ちが良いことから植樹

後の成長が早く、全国で導入

が進んでいます【写真4】。

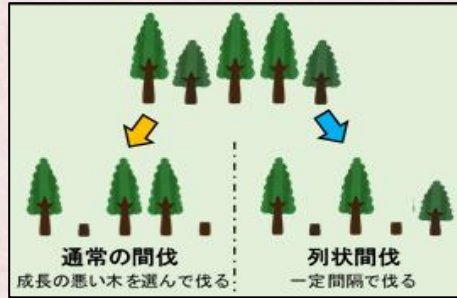
「みどりじまん新聞」は

“木育”の視点を持って「森と共に生きるまち「しそう」」が誇る“みどり”の魅力を発信し、森や木に関心をもってもらうことを目的としています。発行にあたっては、「兵庫県立森林大学校」の学生が執筆し、学校での学びを生かして人と木や森林との関わりを伝えてもらいます。

その他、スギやヒノキよりも成長が早い木として注目されているコウヨウザンやセンダンと呼ばれる木の植樹試験についても教えていただきました。

また、森林管理技術については、列状間伐【図1】など工夫された管理の方法について学びました。列状間伐とは、伐り倒す木をその場で確認しながら決める通常の間伐とは違い、一定の幅で列ごとに間伐する方法で、伐り倒す木を選ぶ手間を省くことができ、作業時間の短縮につながります。私たちが当日見せていただいた山林は、30年前に間伐され、長期間にわたって列状間伐が森林にどのような影響を与えるのかを検証しているとのことでした。

その後は、有限会社杉産業へ伺い、バリューバッキングシステムという最新の機械システムについて教えていただきました。バリューバッキングシステムとは、伐採した幹一本が最大の値段で売れるようにコンピュータが自動的に伐る長さを算出してくれるシステムで、今後の森林経営にとって重要な要素になるのではないかと感じました。



【図1】列状間伐のイメージ



【写真4】コンテナ苗

4日目 岡山県西栗倉村

西栗倉村では、「百年の森構想」という国の新たな森林管理制度に繋がった考え方で、地域外からの人材を活用した地域企業の取組を学ぶとともに、地域の間伐材を活用した「あわくら会館」【写真5】を見学しました。

「百年の森構想」は、50年守り育ててきた地域の森林をさらに50年かけてより良い森林にしていこうとする取組です。地元の方のお話を伺う中で、この構想ができたのは、地域の人たちの繋がりがあからこそだと感じました。また、移住者が木材加工会社を立ち上げ、地域活性化に貢献しているという興味深いお話も伺い、企業よりも人材の誘致に力を入れていることなど、様々なことを学びました。



【写真5】間伐材を活用した「あわくら会館」

5日目 兵庫県

兵庫県では森林動物研究センターと兵庫パルプ工業株式会社に伺いました。

森林動物研究センターでは、野生動物の保護・管理に関する講義を受けた後、獣害対策として動物を追い払うエアガンや轟音玉の体験をしました。轟音玉は、思わず体がびくついてしまうほど大きな音で動物を追い払う花火玉です。その後、昼食に鹿肉を使った弁

当【写真6】をいただきたい、狩猟をシミュレーターで体験したりと、貴重な経験をしました。



【写真6】鹿肉を使った弁当

また、兵庫パルプ工業では、木材からクラフトパルプをつくる工程を見学しました。クラフトパルプとは、段ボールなど強度が必要とされる製品の原料です。ここではバイオマス発電も行われており、パルプ製造で発生する廃液も燃料として使用されています。

まとめ

この5日間で、林業に関する新しい取組や、今後普及していくであろう技術を勉強することができ、作業の低コスト化や木材利用方法の開発など、木材を効率的に生産し幅広く利用する取組が進んでいると感じました。一方、私たちが木材を利用する機会が昔より減っていること、木材価格が下がり、コストを削減しなければ林業が成り立たないことも事実です。

これらの問題に対して、私は森林大で学んだ知識を現場で生かし、林業の低コスト化、そして木材利用の促進に貢献したいと考えています。



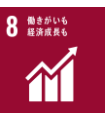
専修学校
兵庫県立森林大学校
Hyogo Prefectural College of Forest Management

森林経営や森林林業に関わる
人材を幅広く育成する学校

【学校見学 随時受付中】



学校 HP



中央市は「森林」を活用したまちの創造・SDGsに取り組めます